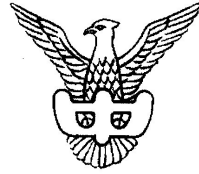


校長室より

第16号

「天空高き」



平成23年3月2日

「ひきこもり留学」 菊池健彦さん

朝日新聞の「ひと」欄に登場した菊池健彦さんの記事を読みましたか。



興味を持ったので彼の著書「イングリッシュ・モンスターの最強英語術」(集英社)を早速購入して読みました。

彼は有り余る時間を利用して独自の方法で英語を勉強しました。私が大学受験のとき勉強した英単語の習得方法と似ていました。

「1日に10個単語を覚えたら、9個忘れてもいいという気持ちで覚えていく。覚えては忘れ、覚えては忘れ、覚えては忘れ、それで

いい。ただ、それを毎日コツコツできるかどうか。毎日、単語、文法、リスニングをコツコツやっていたら、TOEICで900点を取ることは誰でもできる。」(p73-74)

彼は7年間のひきこもりで、英語の勉強を毎日続けてきましたが、彼なりのユニークな工夫が見て取れます。例えば、

1. 自分の好きなジャンルの英文を読む。彼は野球が好きなので、野球に関する記事を探して読んでい

2. 発音は英語の番組を録画して、ワンシーンごとに聞いては止め、また巻き戻しをして何度も何度も繰り返す。
3. 日本人には聞き取りにくい“5つのア”を自分なりの発声方法で習得。
4. 問題集を何冊もやるより、一冊の問題集でわからない単語がなくなるまで勉強。彼は最終章でこう主張しています。

「僕が伝えられるのは『ボクがやった勉強法はこうでした。』というだけで、『これをやったら絶対に英語ができる。』ということではない。みんなが、それぞれ今の自分の実力を把握して、目標を決めて、自分にあった勉強法を工夫してコツコツ頑張るしかない。・・・

だから何度でも言う。この世に“簡単に本物の英語力がつく方法”なんてあるわけがない！安心してコツコツ勉強してほしい。そして、安心して勉強するために大事なことがふたつある。

ひとつは、“自分は今日、知らない単語をひとつでもおぼえられた”という成果か、“たしかにこれが勉強できた”という手ごたえがあること。もうひとつは、成果や手ごたえがなくても“勉強が楽しかった”と思えること。

ふたつともあるのが理想だが、まあ、両方感じられるなんて難しいだろうから、どちらかで十分だ。でも、それでもコツコツと頑張っていれば、英語は確実に自分のものになっていく。自信を持って勉強を続けてほしい。」

最初は誰でも、まず「真似る」から始まります。それを自分のものにするためには「学ぶ」しかないと思います。たしかな手ごたえと学ぶことの楽しさを身に付けた彼は、最強の武器を手中に修めたので、TOEICで24回満点を取ることができたのでないでしょうか。

あとがきに代えて、彼は最後にこう書いています。

「990点満点を取った人間なら、みんな思うことだろうが、ボクにとってTOEICの満点などは、本当に出発点にしかすぎない。英語の勉強には終わりが無い。だからボクは必死になって勉強するのだが、一向に進歩せず、あきらめたくなることもある。そんな時、ボクには英語を勉強する気力を出すための“おまじない”のような言葉がある。それは『オトメギルル』だ。オトメギルル、オトメギルル、オトメギルル……。この言葉を言うと、ボクは頑張る英語の勉強をしなくてはと思う。」(*オトメギルルは坂本龍馬に由来する言葉で、龍馬が英語を習得しようとして「乙女」は英語で「girl」と書くということを知ったが、読み方が分からなかった。大変苦労してようやく「ギルル」と読むらしいと聞いて、単語帳に「オトメ、ギルル」と書き込んだらしい。)

彼は決してイングリッシュモンスターではなく、ひとりのふつうの人間だと思いました。

高水高等学校附属中学校
校長 前田 茂雄

伸び悩んでいる者には、変わる勇気を持たせる。 野村 克也